

市民リポーター
西巻 弘光さん

にしまき ひろみつ
美園町在住。66歳。室蘭市出身。元小・中学校の教員。自らも一昨年パソコンを購入し、メールのやり取りなどを楽しんでいる。



休日や放課後など多くの小・中学生が利用する地域情報センター

パソコンにもっと触れてみよう

地域情報センターがお手伝い

平成13年11月、中央町の登別中央ショッピングセンター・アーニス2階に『登別市地域情報センター・P i P』がオープンして1年が経過しました。

市の中心街に、このような情報センターがあるのは道内でもまれ。この施設が市民にどのように利用されているのかをレポートしました。

幼稚園児からお年寄りまで
1日平均約100人の方が利用

『地域情報センター・P i P』（以下『センター』）とはどんな施設で、どんな利用方法があるのでしよう。

センターのホームページには、「子どもからお年寄りまで楽しめるソフトやメディア、インターネットなどさまざまな情報とコミュニケーションできる設備を備えたIT時代を担う施設です」と説明書きが。

一昨年11月のオープンから昨年12月まで13カ月間の利用者は、2万8千63人。平均すると1日100人近くも



仲嶋 憲一さん

の方が利用する人気施設です。

「幼稚園に通うお子さんから高齢者の方まであらゆる年齢層の方に幅広く利用いただいています」と話すのはスタッフの仲嶋憲一さん。「昨年暮れまで市内各地区で『IT講習会』が開かれましたが、その講習会でパソコンに興味をもち、ここで練習する方をよく見かけますね。中に

は文書作成や表計算をマスターしただけでなく、今ではパソコンを使って作曲に取り組んでいる70歳代の方もいらつしゃいますよ」

センターの中を見回すと、パソコンを使って子どもと一緒に絵を描くお母さんや、社会科の宿題の資料集めにインターネットを活用している高校生、インターネットを介してさまざまな地方の人と文字を打ち込んで会話ができる『チャット』を楽しむ中学生などがいます。

パソコンなどの使い方がわからないときには、簡単な操作方法であればスタッフが親切に教えてくれますし、自分で勉強するためのさまざまな参考書などもあります。

「講習会と違い自分一人で自由にパソコンに触れることができますよ。まずは一度来てみてください」と仲嶋さんは利用を呼びかけています。



市民リポートは、市民のみなさんが自由に発想・企画するページです。